様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１３６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０２４４７

研究課題名（和文）信仰とメディアとの接点―近世前期における奉納文芸並びに神異譚の生成と変容との研究

研究課題名（英文）The point of contact between faith and the media:A study of votive literary arts and the generation and transformation of legends in the early modern period

研究代表者
速水　香織（HAYAMI, Kaori）

信州大学・学術研究院人文科学系・准教授

研究者番号：６０５５６６５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：松本深志神社をはじめ諸社に奉納された連歌資料を中心とした書籍群の調査を実施し、その奉納の経緯、および歴史的な意義を明確にした。
また、神異譚・怪異譚を含む文芸（仮名草子・浮世草子を中心とする）について調査し、内容分析を行った。
上記の調査分析と並行して、近世において文芸の普及に大きな役割を果たした出版文化について、発展の過程ならびに個別の出版書肆の活動に関する研究成果をまとめ、著書として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
各地に鎮座する神社へ奉納された文芸の調査を行い、その一部を論文として成果報告することにより、貴重な事例の情報を発信した。
近世において諸文芸の普及に大きな貢献を果たした出版書肆の、文化としての発展過程について調査し、その一部を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：One of the achievements was to conduct a survey of the books dedicated to the shrine and clarify the background and significance of the dedication.
In addition, research and content analysis of literary arts, including gods and ghosts, have progressed.
At the same time, one of the achievements was the publication of a book on publishing culture, which played a major role in the spread of literary arts in the early modern period.

研究分野：近世文学

キーワード：奉納文芸　神異譚　出版メディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近世初期において飛躍的な発達を見せた出版文化は、以後の文化構造を大きく変容させる画期ともなった。その発達の過程及び実態解明の重要性は、はやく歴史学的な視点から認識され、彌吉光長による諸史料の整備（『未刊史料による日本出版文化』全 8 巻、ゆまに書房 1988-93）がなされるなど、多くの研究が積み重ねられてきた。近年に至っては、日本文学の領域においても、特に江戸時代に出版された浮世草子をはじめとする大衆文学研究の一環あるいは文化史的研究として出版書肆の活動、また文芸ネットワークの調査研究は活発であり、例えば雑誌『西鶴と浮世草子研究』（西鶴研究会・浮世草子研究会編，1-5 号，笠間書院，2006-11）第 1 号において近世の「メディア」が特集されたほか、近世から近現代へと至る出版文化への制約を特集したコロンビア大学における国際シンポジウムを基に『検閲・メディア・文学』（鈴木登美他編，英語版題 ”Censorship, Media, and Literary Culture in Japan”，新曜社，2012）が刊行されるなど、国の内外を問わず、日本文学ひいては日本文化研究における出版メディア研究の意義は強く意識されている。

この、近世初期における出版メディアと社会変容との関係においてとりわけ注目すべき事象は、出版が文学作品創出・流通・享受の基盤となったために文学作品が急激な世俗化を遂げたことである。これは、作家が不特定多数の読者を想定して、あるいは出版メディアの意向（利益の追求等）に配慮しながら作品を執筆しだしたことに加え、文壇の動向や流行の伝播がメディアによって加速し、情報の入手が容易となったことが大きく影響したものと考えられる。

一方で、同じく神の助力を乞う人々が巨大社寺への参詣を望む動きは、室町時代中期以降に興る庶民の集団参詣へと繋がってゆく。そこで目撃された奇跡や神異の話題があらたな題材として文芸が生成され、近世に至りこれが出版物として広く読まれることによりさらなる参詣者を生み出したように、人々の信仰に基づく種々の行為は、近世以降、出版メディアの発達と不可分のものとなってゆく。すなわちその本質的な関係は、宗教学的な視点による日本神話の分析、あるいは文学作品の読解を個々に行う段階においては見出し難く、より巨視的な観点から諸要素をとらえ、時代の流れの中に位置づけてゆく作業が必要となる。

２．研究の目的

研究代表者は、近世において飛躍的に発展し、現在も膨張を続ける日本の出版メディアについて、その草創期の発達過程を明らかにし、さらにメディアが文学作品の生成に与えた影響・作品享受の実態について究明し、社会変容と文芸とを有機的に関連付けることで日本文化の特質を解明することを研究目的とする。本研究課題は、古来神への信仰に基づき行われた「文芸作品の奉納」に着目し、これが近世にメディアが発達するにつれて起こす意義・内容の変容について調査研究を行う。同時に、諸文芸に描かれる神仏観の変遷について分析を行い、社会の変化と信仰、その結果起こる文芸の変容を解明することを目的とする。

３．研究の方法

武家階級および民衆が担い手となった奉納文芸資料についての書誌調査・内容分析を行う。具体的には、戦国最末期から元禄期にかけて深志神社（長野県松本市）に奉納された連歌資料を調査する。1300 年代には存在が確認できる同神社は、近世においては松本藩主からの崇敬篤く、17 世紀初頭には連歌奉納が確認されるが、これは藩主小笠原秀政・忠脩親子が大坂夏の陣において戦死したことを受け次男忠真が藩主となった時期と重なり、さらに連衆に「幸松」（忠脩長子）の名も見えることから、一族繁栄を祈願したものである可能性が高い。これとは別に、寛文年間から松本藩主となった水野忠直による奉納では、純正連歌に加え「俳諧連歌」と明記された奉納の事例が見られるなど、歴代の松本藩主が親しんでいた文芸のあり方に迫りうる内容上の特徴を持っている。

本神社蔵の奉納資料は、現在『松本市史』第 2 巻歴史編【近世】（松本市文書館 1996）にその存在が紹介されるに留まり、未だ本格的に調査されたことはない。研究代表者は、同神社の協力の下、継続的な調査により連衆の実態を把握した上で内容分析を進める。

同時に、社会変容に伴う神仏観の変遷を実体的に考察するため、中世説話ならびに近世初頭に成立した仮名草子に多く見られる神異譚を取り上げ、データベース化を進める。

４．研究成果

２０１７年度　松本深志神社蔵奉納連歌の翻刻作業を進めた。その結果、同社に奉納された文芸資料には、松本藩主を頂点とした武家階級が奉納したものと、当地の大庄屋であった河

辺家らが主催した興行において奉納したものが混在していることが明らかとなった。同社蔵奉納連歌には河辺家との強い関連性が見出されたため、松本市文書館蔵河辺家文書に含まれる連歌資料をも調査対象としたところ、同社蔵連歌の転写が見出されたとともに、同社には今は伝わらない奉納連歌の写本、また水野忠直自筆の連歌（巻子本）を発見した。
また、神仏霊験譚や巷説を話題とする内容を含む仮名草子『囃物語』（全三巻）・『春寝覚』（全一巻）・『西行諸国噺』（全五巻）の書誌調査を行い、全文を翻刻した。

２０１８年度　奉納文芸調査の一環として、高照神社（青森県弘前市）に奉納された古典籍群の調査を実施した。同社は、弘前藩主津軽信政を祭神として近世中期に創祀されているが、以後、藩主ゆかりの古典籍をはじめ、明治に至る複数の時期に異なる方面から奉納が行われたことを明らかにした。さらに、蔵書印・奉納印の調査によって、もと同社蔵であった古典籍の一部が、弘前市立弘前図書館の蔵書となっていることを確認した。また、同館における調査において、19 世紀には同地に鎮座する神社に、一枚刷りの俳諧が継続的に奉納されていたことを発見した。

２０１９年度　松本深志神社蔵奉納連歌ならびに松本市文書館蔵連歌の継続的な調査の結果、伝小笠原家奉納連歌は、大坂夏の陣において当主と次期当主とを失った小笠原家が、今後の一族安泰を祈願して奉納したものである可能性が高いと位置づけた。この成果は、松本市に存する文化財の紹介を兼ねて、公開授業の形で一般に発表した（於信州大学）。連歌資料の調査と並行し、伊勢参宮に関する神異譚の分析による成果を含む近世前期における出版メディアの発達と社会状況の変化とを関連づける研究成果として『近世前期江戸出版文化史』（文学通信 2020、単著）を発表した。また、ブリジット・ルフェーブル氏にゲスト・スピーカーとして招かれる形で、リール大学（フランス）において近世小説および近世出版文化についての講義を行った。

２０２０年度　新型コロナウイルス感染状況拡大の影響により、予定していた資料調査の多くを中止したものの、松本地域における奉納連歌の調査については継続的に実施できた。この成果は、論文として公開した。一連の調査において、松本地域では、武家階級に属する人々に留まらず、庄屋および町人階級の人々が比較的近しい関係にあり、連歌俳諧に親しんでいた形跡が見出された。このことと関連する資料として『信府松本十景句集』（一巻）を全文翻刻し、内容的特徴の解説を付した上で論文として公開した（共著）。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 速水香織	４．巻 8-2
２．論文標題 松本深志神社蔵奉納連歌　翻刻と解題	５．発行年 2021年
３．雑誌名 信州大学人文科学論集	６．最初と最後の頁 205-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 速水香織、小出直樹，室山緑，若林美歩，中村恵	４．巻 10
２．論文標題 『信府松本十景句集』翻刻と解題	５．発行年 2021年
３．雑誌名 信州大学図書館研究	６．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 速水香織	４．巻 26
２．論文標題 元禄末年の江戸出版界――上方との係わりにおいて――	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東海近世	６．最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 速水香織	４．巻 5
２．論文標題 高照神社ゆかりの古典籍――「高岡御蔵書」印をめぐって――	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録	６．最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 速水香織，白井純	4．巻 32
2．論文標題 真田宝物館蔵木板本「二十一代集」（二種）の伝来	5．発行年 2019年
3．雑誌名 松代	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 速水香織	4．巻 51巻2号
2．論文標題 萩坊奥路『西行諸国噺』翻刻と解題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 皇學館論叢	6．最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 速水香織
2．発表標題 松本深志神社奉納連歌について
3．学会等名 東海近世文学会5月例会
4．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 速水 香織	4．発行年 2020年
2．出版社 文学通信	5．総ページ数 456
3．書名 近世前期江戸出版文化史	

１．著者名 柳沢昌紀，入口敦志，冨田成美，速水香織，松村美奈	４．発行年 2017年
２．出版社 東京堂出版	５．総ページ数 312
３．書名 仮名草子集成 第58巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関